

学校法人 中九州第二学園

認定こども園 帯山幼稚園

幼保連携型認定こども園 帯山のぎくこども園

認定こども園 わかくさ幼稚園

あそびを通じた「学びのプロセス(過程)」を重視

すべての子ども達が、共に学び合い、共に支え合い、共に育ち合う

本園の特色

本園が大事にしているもの

《教育方針》

子ども一人ひとりの人格を尊重し、その育ちや能力に応じた教育・保育を行う。

- 幼児期は、ただ単に小学校での学習の準備期間と捉えるのではなく、この時期そのものに意味があります。



幼児期はあそびを通して、様々なことを五感や体全体をフルに使って感じ取る時期。



あそびの中で、考えたり、工夫したり、試すなどして、生きる力を培っていくことを重視。

- 小学校の先取り教育や、英語、体育、音楽といった特定の分野に特化した教育は行わない。



子ども達の今、この時の興味関心を大切にしながら人的物的環境を整え、様々な分野の原体験ができるようし、子ども達に将来に向けた可能性の芽をたくさん「育てあげる」ことを大切にしている。



仮に将来、ある分野でつまずいたとしても他の分野で持っている力を発揮し乗り越えられるようにと願いながら、幅広い分野の教育・保育を行っています。

保育者のかかわり

- 子ども達の主体性と自主性を尊重、子どもに寄り添い、共感することを大切にしている。
- 教師主導で何かを押し付ける、何かを無理にやらせるのではなく、日々、子ども達と一緒にあそびや生活をする中で、子ども達が興味・関心のあることに没頭する姿を優しく見守る。



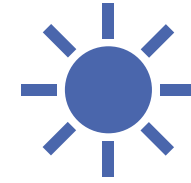
時に、その子ども達の個性に応じた指導や助言を行い、子ども達があそびの中でぶつかる課題を自ら考え乗り越え、自信をつけていけるように、そっと後押しします。



子ども達は「自分でやり遂げた！」という達成感を感じると、さらにあそびにのめり込み挑戦していくという正のサイクルが生まれてきます。

- 本園では、先生方自身が本気で楽しみながら子ども達とかかわっておられるため、子ども達も、保護者の方も心からの笑顔が自然と出てくるような、家庭的な温もりに満ちた幼稚園です。

結果ではなくプロセスを大事に



結果を重視すると…

- 大人が結果ばかりを重視すると、子ども達は「できる」「できない」にこだわってしまい、**失敗することを極度に恐れ、挑戦することをやめてしまいます。**
- プロセスではなく結果ばかりを重視すると、結果が出なくなった時に**自信を失いやすくなり、挫折などから立ち上がる力が弱くなっていきます。**
- また、子ども達の意識の中に「できる子」はすごい子、「できない子」はダメな子といった**感覚が無意識のうちに刷り込まれていき、「いろいろなお友だちがいていい！」という多様性が認められなくなります。**

プロセスを重視すると…

- 本園の先生方は、**結果で良し悪しを判断するのではなく、その結果に至るプロセスをしっかりと認め、子ども達に言葉がけを積極的に行っていきます。**
- **失敗を否定せず、「失敗しても大丈夫だよ！」という声かけと共に、頑張ってきたプロセスをしっかりと認めてあげることで、子ども達は「今の自分でいいんだ、そしてここをもっとこうしていけばいいんだ！」というように**自己肯定感を強め、失敗を恐れず、さらに挑戦を続けるよう**になります。**
- 「自分は、ありのままの自分でいいんだ！」と**自分自身を認められるようになると、「お友だちも、ありのままのお友だちでいいんだ！」とお友だちのことも認められるようになり、相手を尊重する心、ひいては多様性を受け入れる心を持つことができるよう**になります。

共に学び合い、支え合い、育ち合う



多様性の尊重

- 本園の子ども達は、結果ではなくプロセスを重視する先生方のかかわりのもと、前に説明したように、**多様性を受け止める心が自然と身についていきます。**
- お友だち一人ひとりに**個性があること、得意なこと、苦手なことがあるのはごく自然のことである**という認識を深め、**自分が得意なことではお友だちを助け、自分が苦手なことではお友だちに助けをもらうという相互関係が自然とできるようになるのです。**
- 小学校の先生とお話すると、「いつも困っているお友だちを一番に助けてくれるのは貴園を卒園した子どもさんです。」とおっしゃってくださいます。

多様性の尊重に関する教師のかかわり

- 日頃から子ども達とたくさんあそび、たくさん話している本園の教師は、子ども達との信頼関係を構築すると同時に、**それぞれの子ども達の性格や個性、特徴をしっかりと把握**しています。
- そうした「個」のしっかりとした把握のもとに、教師は保育の様々な場面で、**子ども一人ひとりの持つ良さを、他の子ども達に伝えることで、他の子ども達も、その子の良さに気づき、その子を認める**ことができるようになるのです。そして、その子にとっても**「お友だちに自分を認めてもらえた！」**という思いが**自信となり、自己肯定感を高め**、その子が**自分の長所をさらに伸ばしていく新たなきっかけ**となります。こうして、子ども達の間で、**認め合い、支え合いの「正のサイクル」**が更に循環するようになります。

雇用条件・雇用環境等-その1



雇用条件・雇用環境-1

- ▶ 本園では、幼児教育・保育に対し意欲と情熱のある方、子ども達と苦楽を共にしながら、自身も人として保育者として成長したい方、**同僚と共に、自分の所属する幼稚園・こども園を更により良いものにしていきたい**という熱い思いを持った方、そんな皆さんとのご縁をお待ちしています。
- ▶ また、各クラス共通した教育課程に基づく教育・保育の中で、**皆さんご自身の興味関心のあることや得意なことを活かした柔軟性のある自分ならではの保育を行うこともできます**ので、子ども達と一緒に、そんな保育を楽しんで欲しいと思います。

雇用条件・雇用環境-2

- ▶ 特に近年は、ワークライフバランスの考え方に基づき、先生方が仕事と私生活を両立させながら、生きがいのある充実した日々を過ごすことができるよう、**幼稚園教諭・保育士でないといけない仕事以外は、子育て支援員の方など**にお願いし、業務の役割分担を行い、先生方の負担軽減に努めています。
- ▶ 例えば、バスの添乗は専属の子育て支援員の先生にお願いし、保育後の保育室の掃除や消毒、トイレ清掃などの一部は、業者に委託し、先生方が**勤務時間内に、教育・保育の仕事に専念して仕事を終えることができる**ようにしています。

雇用条件・雇用環境等-その2

雇用条件・雇用環境等-3

- 職員を配置基準より多く雇い入れることで、少しでも多く年休を取れるように努めています。
- 公休は100～105日で、それに加えて年休があり、年休取得率は100%。年休の平均消化率は75%、平均年休取得日数は14.7日となっています。1年目は年休10日ですが、毎年増えていくようになっています。
- その年度、その年度の生徒数の状況にもよりますが、1年目は基本的に複数担任を経験してもらい、先輩の先生からサポートやアドバイスをもらいながら、安心してじっくりと園の流れに慣れてもらうような環境を整えるようになっています。その後、その環境の中で学んだことを主担任になった時にしっかりと活かせるようになっています。

雇用条件・雇用環境等-4

- キャリアパス制度を導入し、保育者としての自分の将来像(キャリア)を見通せるようにしており、経験年数別の内外研修のみならず、少人数による研修など、職員の資質向上に努めています。
- また、フォーマルな研修だけでなく、形式的でない「ちよこつと園内研修」などもあり、先生方は職員室や保育室で同僚とざっくばらんに子どものことを話したり共有したりするのを楽しむ姿が多く見られます。同時にこのような場を通して、様々な知見や様々な教職員の考え方・見方を知り、多角的に物事を捉えることのできる視点が育まれ、お互いに刺激を受け合いながら自己を高めていける環境が作られています。
- ホームページに本園の先生方から学生の皆様へのメッセージ動画を掲載していますのでご覧ください。

処遇面

月給与	賞与・福利厚生
<p>《大卒》 基本給173,400円 + 調整手当11,000円 + 処遇改善手当Ⅱ 10,000円 = 194,400円</p> <p>《短大卒》 基本給168,300円 + 調整手当8,000円 + 処遇改善手当Ⅱ 10,000円 = 186,300円</p> <p>上記以外に更に「上乘せ手当」として、下記を支給します。</p> <p>① 処遇改善手当Ⅰ (年度末に18万円程度を一括支給。 月当たり15,000円程度に相当)</p> <p>② 資格手当(要件あり)</p> <p>③ 通勤手当(通勤距離2km以上の場合、その距離に応じて支給。上限10,400円)</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 年2回 3.8ヶ月分(初年度は2.85ヶ月分)➤ 私学共済(健康保険・年金)➤ 雇用保険➤ 労災保険➤ 退職金制度➤ 育児・介護休業制度(産休・育休の実績有り) <p>※以上のように、福利厚生面でも充実しています。</p>